

沖塚原地内での新斎場整備計画について

射水市 市民生活部 環境課

新斎場の必要性

現施設の 老朽化

- ◆ 築後約50年が経過
(昭和42年供用開始)

火葬炉数 の不足

- ◆ 火葬件数が増加
平成17年度 964件
22年度 1,095件
27年度 1,153件

設備・機能 の不足

- ◆ 告別・収骨室や待合室が
不十分

近年の斎場整備の主な考え方

- 将来の火葬需要の増加に対応できる施設
- 人生終焉の場として落ち着きと安らぎを感じられる施設
- 亡くなられた方と最後の別れの時を過ごす大切な空間として、儀式の個別化が図られる施設
- 周辺環境に馴染むデザインとし、周辺住民に配慮した施設

施設整備の基本方針は、今後策定する基本計画の中で検討します。

これまでの経緯

平成26年12月	塚原地域振興会から沖塚原地内に斎場を誘致する要望書が提出
平成27年 7月	斎場検討委員会(沖塚原自治会内)設立
10月	沖塚原自治会臨時総会開催。3分の2以上の賛成を得られず。
12月	自治会住民の嘆願書が提出され、自治会臨時総会を開催し、斎場の受入れについて再度投票を行う。 過半数(結果3分の2以上)の賛成を得る。
平成28年 1月	沖塚原自治会から斎場の整備について協議の申入れ 斎場問題協議会(沖塚原自治会内)設立
3月	斎場問題協議会で斎場視察実施(滑川、高岡)
7月	斎場問題協議会に対し、建設候補地を示す。 建設候補地の地権者説明会を開催
8月	沖塚原自治会の住民説明会を開催 市長と沖塚原自治会長による基本合意書を締結

新斎場の規模

➤ 火葬件数の推計(平成26年度実績から推計)

平成26年 1,138件

平成37年 1,388件

平成47年 1,479件

ピーク期

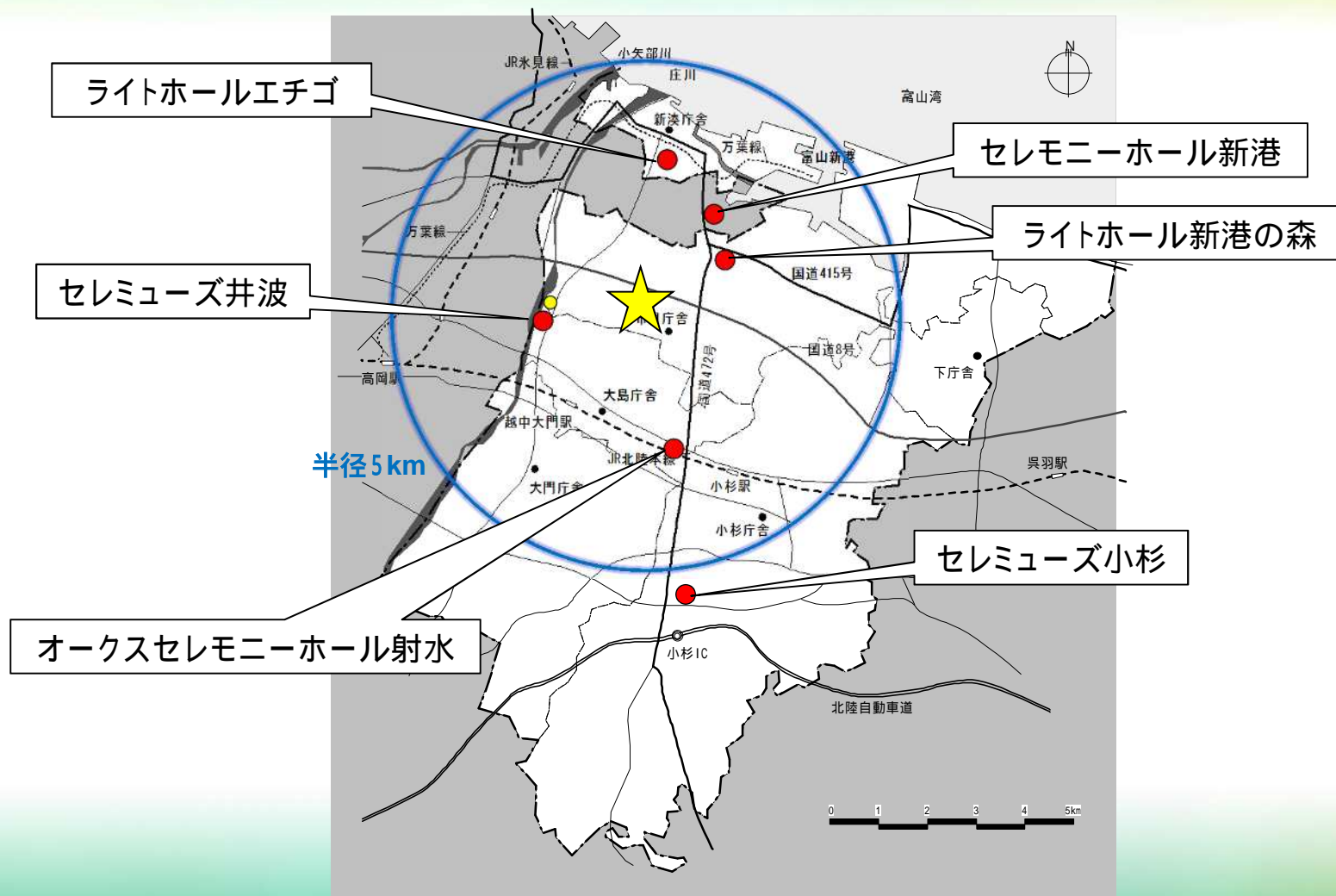
➤ 必要火葬炉数

6基(必要に応じて1基の予備スペース)

➤ 敷地面積

11,000 ~ 25,000m²(全国事例より)

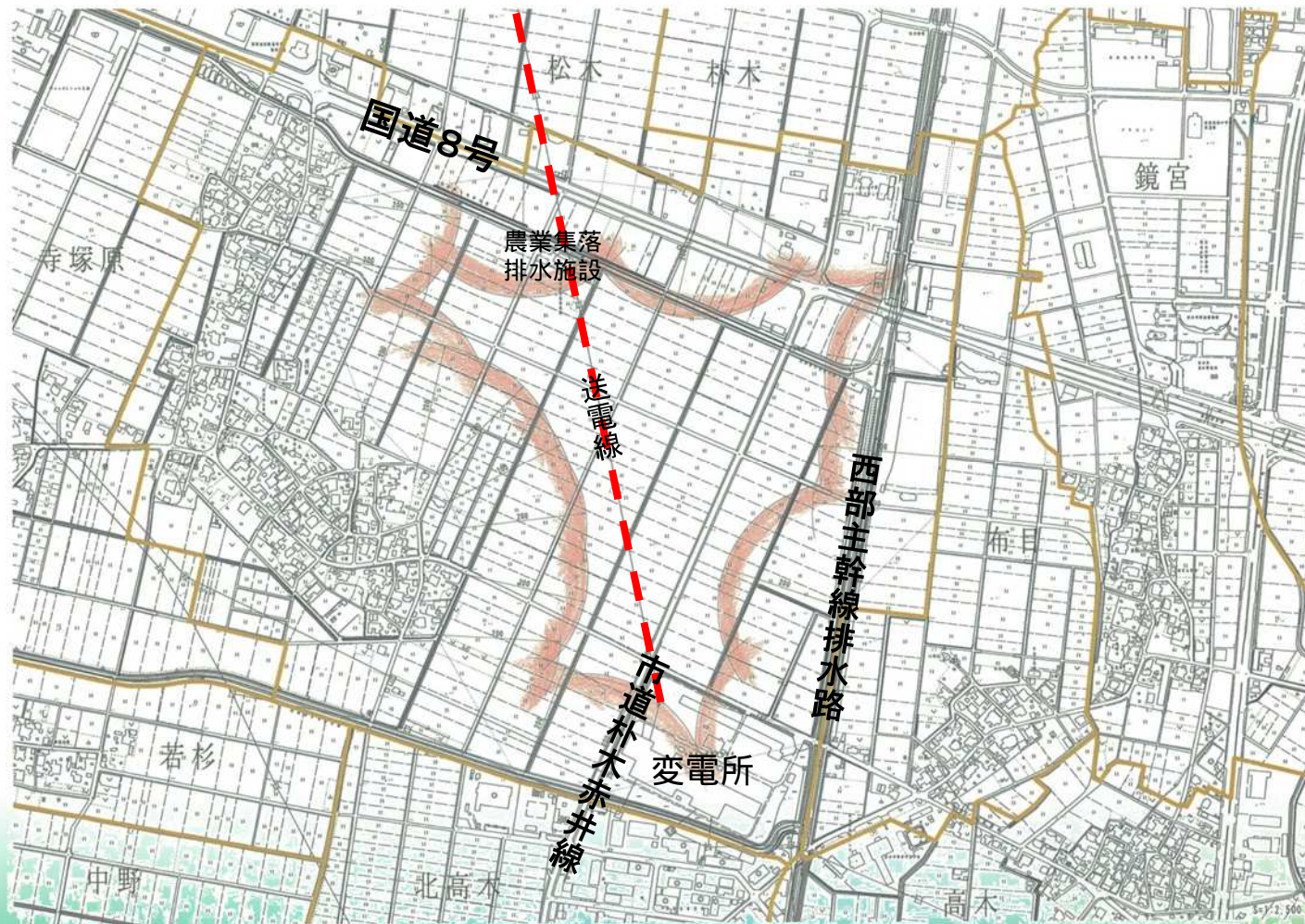
沖塚原地区の地理的環境



建設場所の選定条件

- 集落からできるだけ離れた場所
- 施設建物が高圧線の下にならない場所
- 住宅や隣接自治会の敷地境界から200m以上離れた場所
- 幹線道路からのアクセスに優れた場所
- 敷地境界が道路や排水路で区切られる場所

新斎場の建設候補地



新斎場の建設候補地(案)

